

症状③

失認

視力・聴覚などには問題がないにも関わらず、見えているものや聞こえたものが何であるかわからないという症状です。

主な症状



- 見ただけでは何であるかわからないが触るとわかる（視覚失認）
- 人の顔や表情、老若男女を識別できないが声で誰かわかる（相貌失認）
- 自分の体の部位や位置関係がわからない（身体失認）
- 自分と周囲の物、周囲にある物同士の位置関係を見て理解出来ない（空想間認知障害）

対応方法



上記のように見てわからなくても、触る・聞くなど別の感覚からだと理解できるので、障害されていない感覚から認識してもらえると良いでしょう。視空間認知障害でも、触れたり連続的に手探りしたりしてみると距離感がわかりやすくなることがあります。

症状④

半側無視

自分を中心に左右どちらかの半分の空間や身体を認識できない状態で、右よりも左側無視が多いようです。麻痺がない場合もありますが、重度な麻痺を伴うときちんと座るのも難しくなります。

主な症状



- 無視側の体や車いすを壁などにぶつける
- 無視側のブレーキやフットサポートの処理を忘れる
- 横書き文章の左側や数字の左側の桁を見落とす
- 無視側から来る車や人に気付かない、無視側の道に気付かず曲がれない

対応方法



自ら気が付くことが難しいので、無視側に配置され、転倒などの危険因子になるものは片づけます。車いすのブレーキや取扱説明書の文章などは気付いてほしい部分をマーキングして目立たせましょう。また、疲れていたり、焦っていたりすると症状が出やすいので、ゆっくり探索できる時間を確保し、周囲の人は急かさず穏やかに対応するようにしましょう。

段差に気が付かず転倒する…

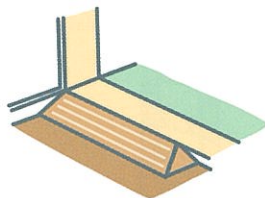
疑われる
高次脳機能障害

注意障害や視覚認知に問題がある方にみられます。

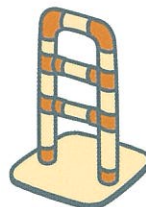
◎ 対応する[福祉用具]と[適応ポイント]



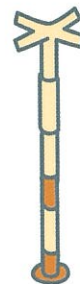
足元照明や蓄光テープの設置



住宅改修により段差を解消する



床置き式手すり



天井突っ張り式手すり



POINT

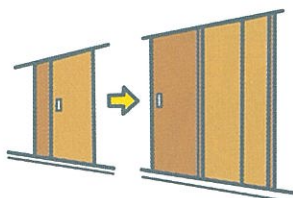
段差解消が最善策です。住環境や経済的問題で段差が解消できない場合は、手すりにより段差への注意を喚起する、手すりを持つことで身体を安定させ、転倒を回避することができます。また、夜間の移動には、足元照明、手すり、段差に貼った蓄光テープ等は注意を喚起してくれます。

歩行器で狭い間口を通ろうとするが通れない…

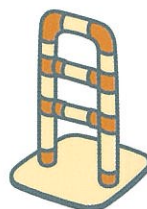
疑われる
高次脳機能障害

福祉用具の使い方を記憶できない場合や注意障害で見られます。

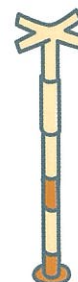
◎ 対応する[福祉用具]と[適応ポイント]



住宅改修により間口を拡大する



床置き式手すり



天井突っ張り式手すり



POINT

狭い間口の先のトイレや洗面所などの見えやすいところに手すりを配置すると、歩行器から手すりに支持物を移行して移動することができます。歩行器は両手支持がないと立位・歩行が不安定な人が使うものなので、両手支持ができるような手すりの配置が必要です。